

醸造協会



12月号をお届けします。執筆時点では、木々の葉も色づいてきており、秋が深まっています。食欲の秋、紅葉の秋、実りの秋、読書の秋、行楽の秋、スポーツの秋、芸術の秋など、秋を形容する言葉はたくさんありますが、皆様はどの秋を楽しんだでしょうか。筆者は、東京国立博物館で10月14日から開催された御即位記念特別展「正倉院の世界—皇室がまもり伝えた美—」に行っていました。教科書などでもおなじみの正倉院の名品がたくさん展示されており、多くの参観者でにぎわっていました。正倉院の宝物は、天平勝宝8年(756年)に光明皇后が東大寺に献納された聖武天皇ご遺愛の品々を中心とのことですが、その目録である東大寺献物帳(国家珍宝帳)も展示されており、大勢の人が見入っていました。次に多くの観客を集めていたのが、黄熟香という香木で、東大寺の文字が含まれている「蘭奢待(らんじゃたい)」との別名でも知られています。沈香という種類の香木で現在でも高い香りを放っているそうです。後半でひときわ人を集めていたのが、螺鈿紫檀五絃琵琶(らでんしたんのごげんびわ)です。正面にラクダに乗った人が琵琶を演奏している様子が螺鈿で描かれていることで有名ですが、背面も螺鈿による花模様が全面に描かれており、大変きれいです。本物は演奏できないそうですが、精巧な複製品が作成されており、それによる演奏の録音が会場に流れていました。

文化財といえば、醸造協会が管理している国の重要文化財である旧醸造試験所第一工場についても、東京文化財ウィーク2019に合わせて、10月29日～11月1日の4日間一般公開が行われました。初日はあいにくの雨となりましたが、その後は良い天気にも恵まれ、合計で374名の参加がありました。筆者は昭和60年から約10年間醸造試験所に在籍して、赤煉瓦酒造工場で毎年酒造りをしていたのですが、建物自体の歴史や建築上の特徴などはほとんど知りませんでした。今回、筆者もにわか勉強をして、赤煉瓦酒造工場の案内をいたしました。使われた煉瓦は日本煉瓦製造株式会社で製造されたもので、この会社は新一万円札の図柄となることで脚光を浴びている渋沢栄一によって設立されました。煉瓦の積み方も外観と強度を考慮して、外壁はドイツ積、内壁はイギリス積となっており、開口部や天井のアーチには見た目ではわかりにくいのですが、台形の煉瓦が使用されているとのことでした。これらについては、本誌の107巻第8号(2012年)に長谷川哲也氏の「妻木頼黄の造った醸造試験所の赤れんが建物」という解説記事がありますので、詳しくはそちらをご覧ください。

10月中旬には学会や会議が相次いで開催されました。10月15日には清酒酵母麴研究会が東京都北区の北とびあいで開催されました。筆者も演者として参加し、清酒酵母の胞子形成率と発芽能が低い原因についての発表を行いました。醸造協会が関係している醸造学会大会は、10月16日～17日に例年通り北とびあつつじホールで開催されました。34題の一般公演と奈良先端科学技術大学院大学の高木博史教授による特別講演が行われ、258名の参加がありました。10月18日には国税庁の主催で、日本ワインの製造に関する技術情報交換会があり、国税庁や酒類総合研究所のワインに関する施策・取り組みの紹介の後、新規のワイン醸造用資材、長野県におけるワイン振興についての講演がありました。引き続いて10月18日午後には、第64回全国酒造技術指導機関合同会議が行われました。酒類総合研究所からは、新酒鑑評会の審査方法については種々検討しているが、来年は従来通りの審査方法で行うとのことでした。また、酒中連幹事のビール酒造組合からは、酒類製造業における「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書」がもうすぐ完成し、利用可能になるとのことでした。

令和元年も間もなく終わろうとしています。今年を思い返してみますと、はやぶさ2の小惑星着陸、紙幣デザイン刷新の発表、新天皇の御即位と新元号の開始、トランプ米大統領の来日、G20大阪サミットの開催、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録、参議院選挙、度重なる台風・大雨による被害、吉野彰氏のノーベル化学賞受賞などがありました。来年は十二支の子(ね)年に当たるとのことですが、どのような年になるのでしょうか。皆様良いお年をお迎えください。